宮崎大学学術情報リポジトリ
University of Miyazaki Academic Repository

初修外国語における異文化理解の促進とコミュニケーション力の増強について：宮崎大学中国語講座の試み

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 宮崎大学教育文化学部
	公開日: 2020-06-21
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 上原, 徳子, 藤井, 久美子, Uehara, Noriko
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/5031

宮崎大学教育文化学部紀要　教育科学　第31号（2014）61-75頁

初修外国語における異文化理解の促進とコミュニケーション力の増強について

―宮崎大学中国語講座の試み―

上原徳子[i]　藤井久美子[ii]

A Study on the Promotion of Cross-cultural Understanding and the Reinforcement of Communication Power in a Second Foreign Language Course: Attempts by the Department of Chinese at the University of Miyazaki

Noriko UEHARA and Kumiko FUJII

はじめに

宮崎大学には、国際交流に関心のある日本人学生は多数いるが、多くは内向的で、自分から積極的に留学生と交流することにはためらいを感じる者が多い。そうした学生たちも、留学生と授業内で会話練習などを一緒に行うことで親近感を覚え、交流の方法を身につけ、留学生の顔を覚える事ができれば、授業外（例えば、生協食堂等）での交流のハードルもかなり下がるはずである。留学生にとっても、留学先での日本人学生との交流の機会が増え、また、深く付き合うことのできる日本人の友人が一人でも多く増えることは留学生活を一層有意義にする。どちらにとっても、量と質の両面で効果的であると言えるのである。

さらにいえば、中国語の習得という観点から、向上心の強い日本人学生向けに会話練習の場を設定することは、学内でコミュニケーション能力レベルの高い学生を育てることにつながると考えられる。また、そうした学生ほど、語学力の向上だけでなく、友人関係の構築を通した相互理解への欲求も強い。より強い絆となって学生どうしがつながれば、大学にとっても、将来的に協定校との交流強化に役立つはずである。日本人学生の「異文化交流体験学習（H26年度以降は中国語圏については「中国文化短期研修」）の受講や長期の留学へとつながる可能性も高い。この基礎教育の中の中国語科目と授業外の会話練習を通して、日本人学生と中国人・台湾人留学生双方の交流・異文化理解の促進、コミュニケーション力の増強を図りたいと考えた。

本稿に述べる試みは、宮崎大学の中国語教育においてすでに数年間にわたって実施済みであり、平成21年度に試行したのち、平成22年度から実施継続中である。

これまでの成果については、「上原徳子・藤井久美子・金善美（2011）「初修外国語における学習意欲向上の試み―中国語・韓国語語学コーナー開設をめぐって」『宮崎大学教育文化学部紀要 教育科学』第25号（1-16頁）宮崎大学教育文化学部」「上原徳子・藤井久美子（2013）「通常授業と教室外活動との連携による意欲向上のための試みについて」『第62回九州地区大学一般教育研究協議会　議事録』（2013年９月に琉球大学で開催された第62回九州地区大学一般教育

[i] 宮崎大学　教育文化学部准教授
[ii] 宮崎大学　教育文化学部准教授

研究協議会で一部は発表済)」に述べた。本稿は、平成25年度に実施した中国語授業への留学生の参加、及び後期に実施した中国語会話学習会について考察する。

なおH25年度に行った試みの一部は、2014年３月７日に行われた「平成25年度共通教育部、COC、及びFD専門委員会合同FD／SD研修会」において「共通教育重点経費の報告」として報告済みである。

なお、本稿の分担は、アンケートの作成と集計、構成を藤井が、本文の作成を上原が担当する形で進められた。

方法

平成26年度の試みは以下のような方法をとった。

①授業参加を通した基礎的交流

②授業外の強化発展的交流

「授業参加を通した基礎的交流」は、留学生が授業に参加し、以下のことを行う。

「本文にある会話のモデル提示」「学生間会話練習への参加」「パワーポイントを利用した自大学や自文化の紹介」「中国の生の若者事情の紹介」。

「授業外の強化発展的交流」では、中国語会話学習会を開催し、具体的には以下の様に実施した。

日時：平成25年11月～１月　月曜日・木曜日　16時半～17時半（実際は18時頃まで）
場所：図書館　ラーニングコモンズ
担当：アドバイザー兼管理者の日本人学生１名＋中国人留学生４名（曜日により２名ずつ）
内容：自己紹介、交流に必要な簡単な会話（家族・大学・趣味・課外活動など）
その他：参加回数に応じて、成績に加点がある。

アンケート調査

今回の試みの学生への影響を検証するために、2014年２月末から３月初めにかけ、授業内でアンケートを行った。なおアンケートは本稿の末尾に資料として添えつけている。

アンケートの回答数は以下の表１の通りである。

表１

	工学部 １組	工学部 ２組	教文学部 １組	教文学部 ２組	農学部 １組	農学部 ２組	農再・ 医学部
回答者数	56	53	45	38	44	43	11
登録者数	56	59	47	38	44	44	11

授業参加を通した基礎的交流について

以下の問いは、前期の台湾人学生、後期の中国人学生の授業内でのパワーポイントによる発表についてのものである。

まず、「留学生によるPPT発表に興味を持ったか」と尋ねた。（なお農学部２組と農学部再履修・医学部クラスは留学生の発表を行っていないので、この調査の対象としていない。）

表２によると、すべてのクラスで、「とても興味を持った」「興味を持った」という回答が大

部分を占めた。興味を持たなかった少数の意見としては、元々中国に興味が無い、欧米の方が好きである（なぜ中国語を選択しているのかが疑問であるが）、将来行くつもりもなく何も知りたいと思わない、などがあった。

具体的にどのようなテーマに関心を持ったか記述してもらったところ、回答は留学生の発表内容ほとんどすべてに渡っていた。発表のテーマは、基本的なものを教員側から留学生に５つほど提示したのち、学生たちの感想カードなどから関心がありそうなものをピックアップし、相談しながら決めた。

学生は、自分と同じ世代の中国人が何を好んでいるのか、どのような生活をしているのかに非常に興味があった。中国・台湾でも日本のドラマやアニメが広く受け入れられ人気があることなど、初めて知ったという学生が非常に多かった。基本的な知識としては、現地の料理について、大学生の一日の生活や一年のスケジュールについて、関心を示した学生が多く見られた。学生の中国・台湾についての知識はマスコミで得られた限られたものしか無く、留学生が発表する内容には驚きと新鮮さを感じることが多かったようである。基礎的な知識の欠如を象徴したのは、前期の台湾人学生の発表の最後のテーマは、留学生が感想カードを読んで自分で選んだテーマで発表してもらうことにした際であった。留学生は、学生たちが中国と台湾の複雑かつ微妙な関係や歴史についてほとんど知らないことを敏感に感じ、それについて話したいと主張したのである。非常に神経を使う問題だが、留学生はバランスのとれた発表をしてくれたため、学生たちも改めて中台の問題についての理解を自分なりに深めてくれた。現在、日本と中国の間にも様々な懸案事項があるが、テーマの選択と、教員のある程度の指示によって特に問題は起こっていない。教員は内容を検閲することは無いが発表の途中で補足することはある。また、留学生の中には人前で発表することを苦手とする者もおり、声が小さい、聞き取りにくい、などの問題はあった。これについては、教員が随時留学生と相談しながら進めていった。

表２

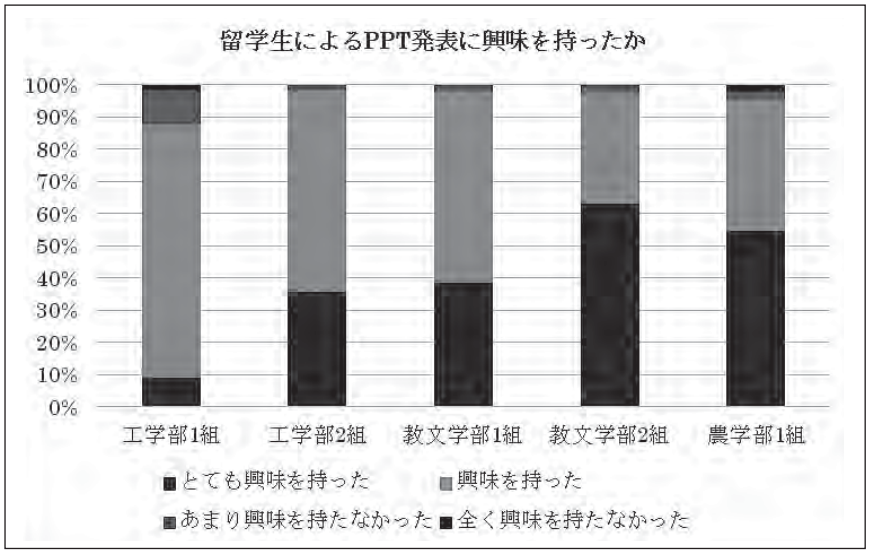
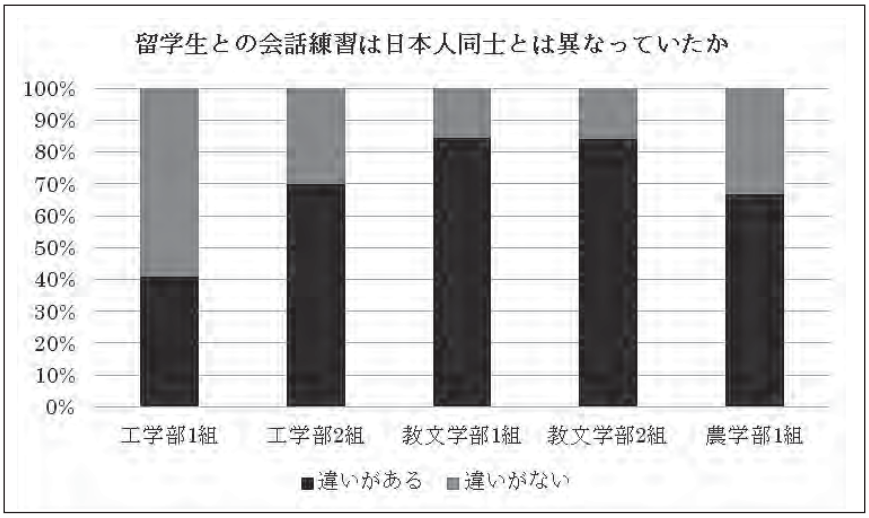
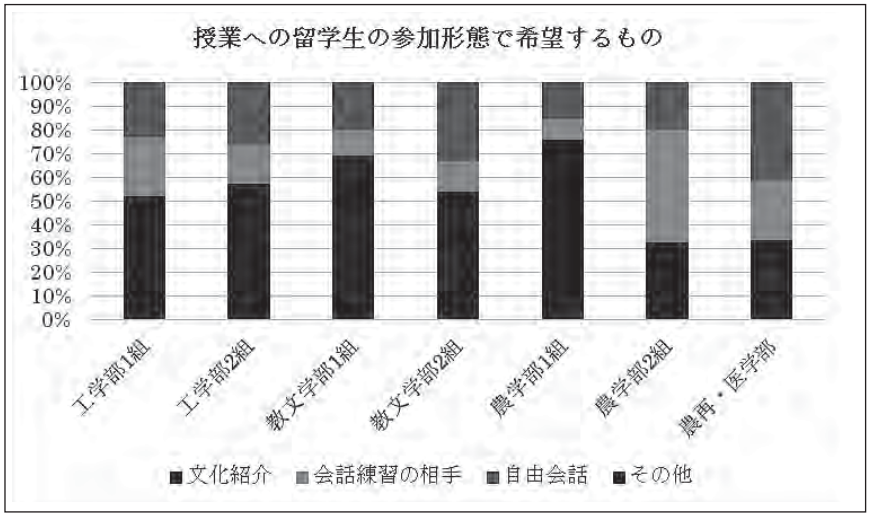


表３



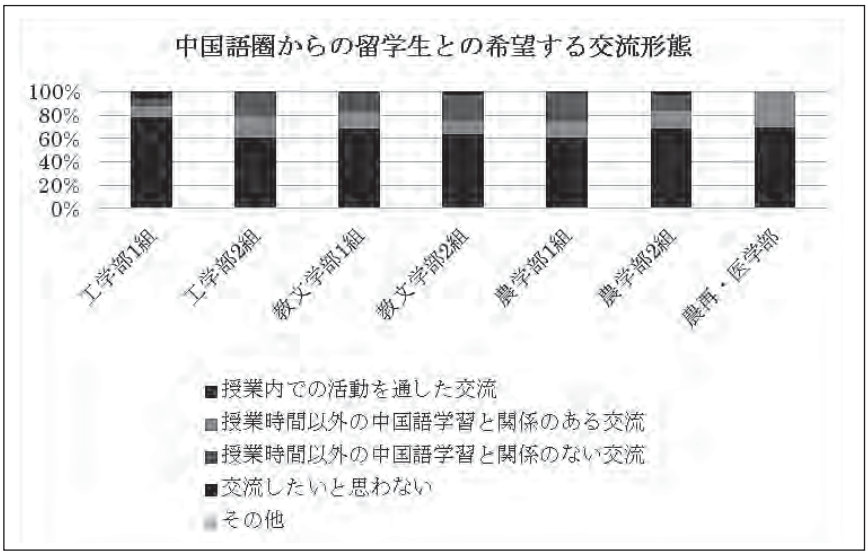
次に、「留学生との会話練習は日本人同士とは異なっていたか」と尋ねたところ、表３のように、会話練習が少なかった工学部１組を除いたクラスで、違いがあったと感じた学生が多数を占めた。違いとして挙げられていたのは、「緊張感があった」「CDよりスピードが速かった」などであった。

表４



「授業への留学生の参加形態で希望するもの」について、全クラスで尋ねた。表４によると、実際に留学生が恒常的に授業に参加していたすべてのクラスで「文化紹介」をしてほしいと答えた学生が最も多かった。学生にとって最も興味が持てわかりやすかったことがうかがえる。それに対して、ネイティブ教員が全授業を担当していた農学部２組と農学部再履修・医学部クラスでは、会話練習を望む回答が目立った。ネイティブ教員が担当していてもすべての学生と会話練習を十分にできるわけでは無いので、同程度の年齢の留学生と話してみたいと考えたと

表５

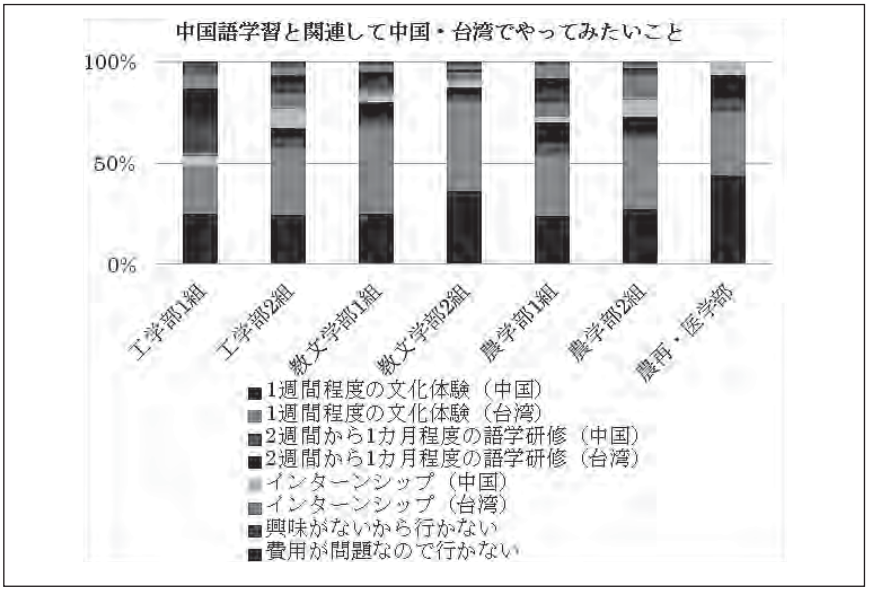


思われる。文化紹介は、教員が行っていたため必要性を感じなかったのであろう。

「中国語圏からの留学生との希望する交流形態」について尋ねたところ、表５のように、圧倒的に、授業時間内での交流を望む学生が多いことがわかった。

最後に「中国語学習と関連して中国・台湾でやってみたいこと」を尋ねた。表６によれば各クラスで共通して最も多かった回答は、一週間程度の中国・台湾研修への参加であった。それ以上の期間の研修への参加希望を含めると、多くの学生が現地に行ってみたいと考えていることがわかる。学生はなかなか長期の留学へは踏み切れないが、短期であれば可能性が大いにあ

表６



ることがはっきりした。これは、留学生の授業への参加の有無と特に関連はみられないので、宮崎大学の中国語学習者全体の傾向といえるだろう。

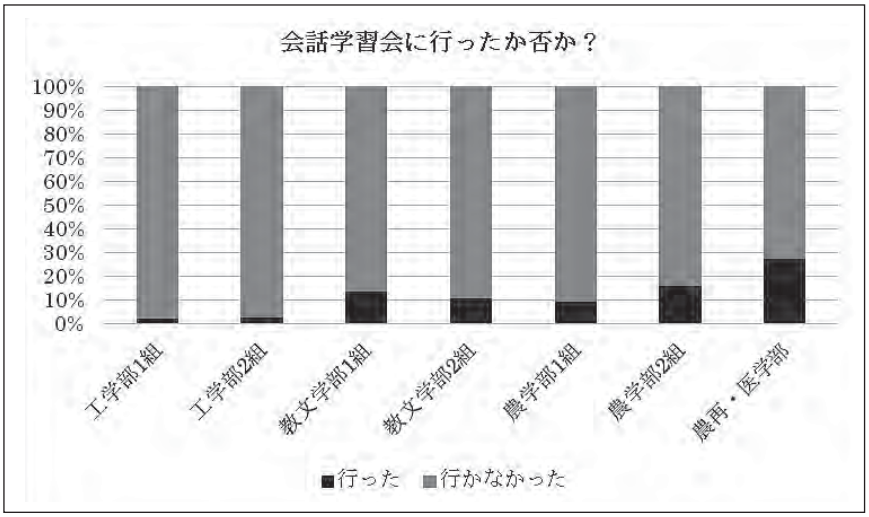
授業外の強化発展的交流

中国語会話学習会の参加者は、合計24人であり、のべ83人である。詳しい内訳は、工学部２人（環境応用化学科）、教育文化学部９人（学校教育課程）、農学部10人（植物生産環境科学科５人・応用生物科学科３人・海洋生物環境学科２人）、医学部３人（医学科３人）である。特に農学部は10人で延べ40人が参加しており、全回（14回）出席は、農学部の１名であった。

会話学習会に関するアンケート結果は以下のとおりである。

まず「会話学習会に行ったか否か？」を尋ねたところ、上に具体的な内訳を述べたとおりではあるが、表７のように、特に工学部で参加者が少なかったことが目立つ。人数は農学部よりも少ないものの、教育文化学部のクラスと農学部のクラスの参加者の割合にそれほどの差が無いこともわかった。

表７



つぎに、参加した学生に対して参加した理由について尋ねた。表８によると、加点目的ももちろんあるが、会話を勉強したい、留学生と話してみたい、という学生が多いことがわかる[1]。さらに、参加しなかった学生に対して参加しなかった理由について尋ねた。表９によると、授業があったと答えた者は各クラス２割程度で、それよりもサークル活動やアルバイト時間との重なりを理由とする者が多かった。学生たちの価値観からすれば、中国語の会話練習を留学生とするよりも、友人たちとの時間やアルバイトの方が優先されるということなのであろう。

[1] 表８「会話練習会に参加した理由」で、工学部１組の部分が白紙になっているのは、１名だけであった参加者がこの問いに無回答だったことによる。

表８

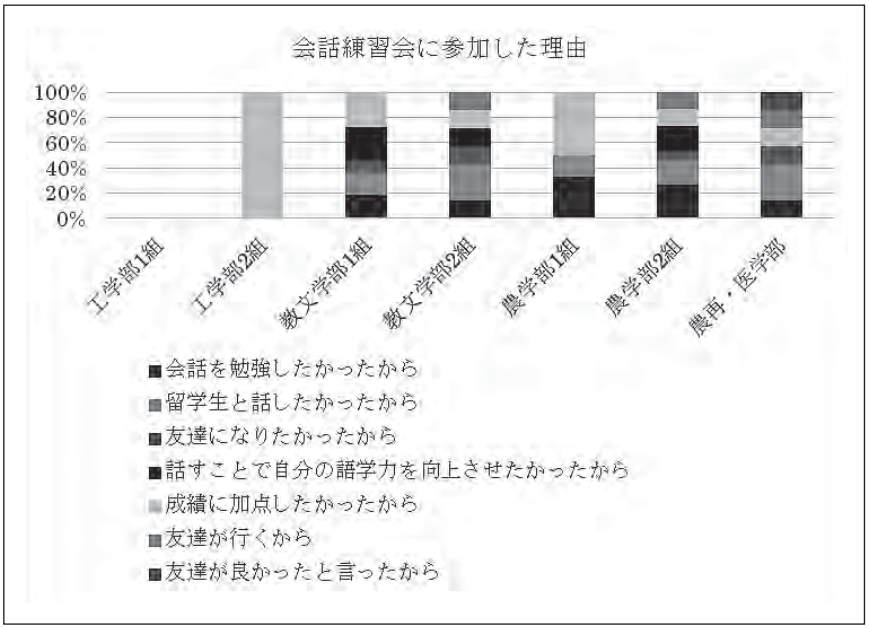

会話練習会に参加した理由
100%
80%
60%
40%
20%
0%
工学部1組
工学部2組
教文学部1組
教文学部2組
農学部1組
農学部2組
農再・医学部
会話を勉強したかったから
留学生と話したかったから
友達になりたかったから
話すことで自分の語学力を向上させたかったから
成績に加点したかったから
友達が行くから
友達が良かったと言ったから

表９

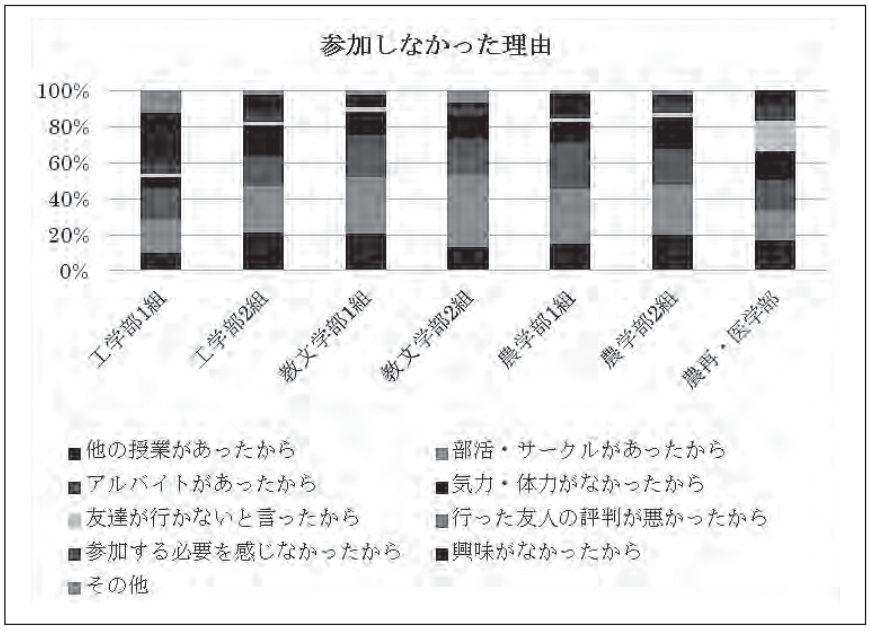

参加しなかった理由
100%
80%
60%
40%
20%
0%
工学部1組
工学部2組
教文学部1組
教文学部2組
農学部1組
農学部2組
農再・医学部
他の授業があったから
部活・サークルがあったから
アルバイトがあったから
気力・体力がなかったから
友達が行かないと言ったから
行った友人の評判が悪かったから
参加する必要を感じなかったから
興味がなかったから
その他

表10

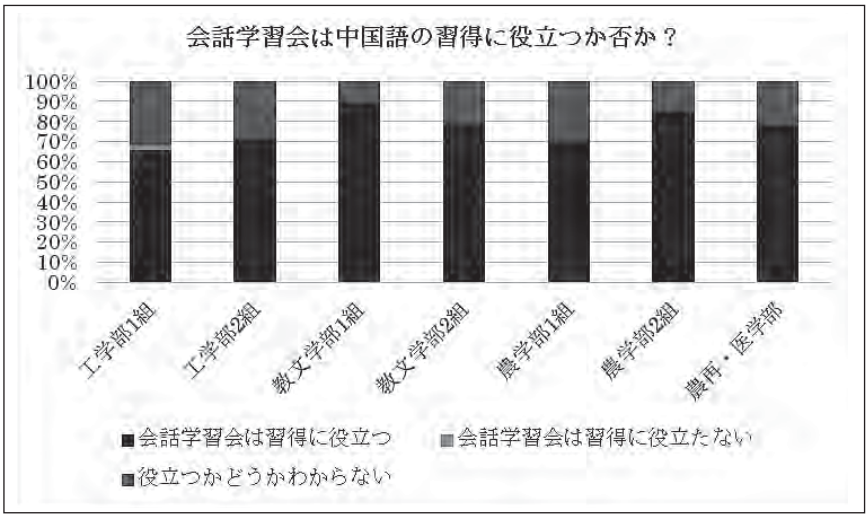
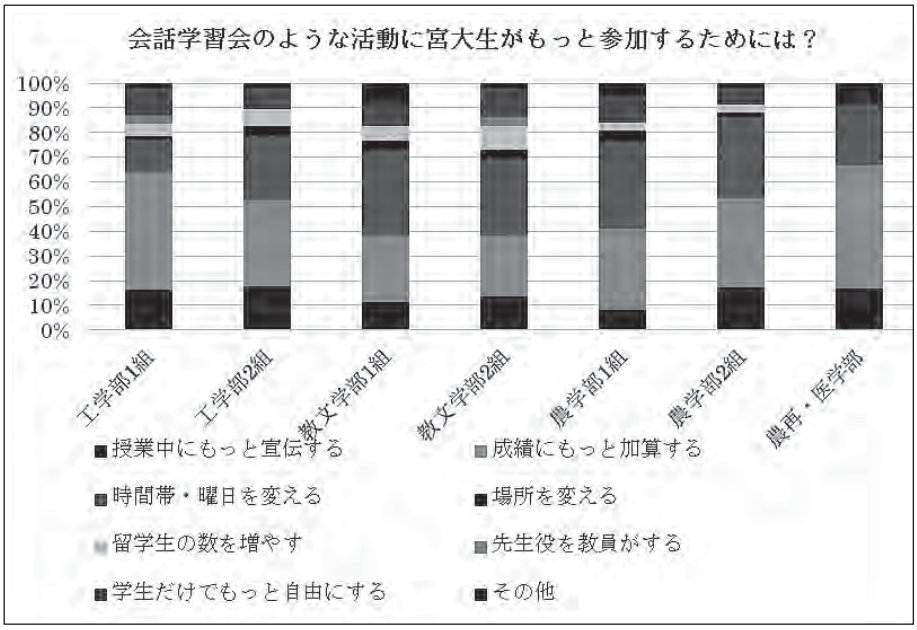


表11



次に「会話学習会は中国語の習得に役立つか否か？」という問いかけをしてみたところ、表10のように、すべてのクラスで６割以上の学生が役に立つと考えている。役に立たないと答えた学生はほとんどみられなかった。

学生に「会話学習会のような活動に宮大生がもっと参加するためには？」と尋ねたところ、表11のような結果となった。学生たちは、会話練習会に参加することで通常授業により多く加点を加えること、さらに、時間帯と曜日を変えることを参加を促す方法として挙げた。

今後の実施の参考にするため「中国語の単位修得後も学習会を活用して勉強を続けたいか？」

と尋ねた。表12によると、是非あるいはできれば続けたいと答えた学生は各クラスばらつきがあるものの多くても半数であった。さらに、会話練習会を後輩にも勧めたいかを尋ねたところ、結果は表13のとおり、勧めると答えた学生の割合はクラスによってばらつきがあった。教育文化学部で半数、農学部で４～５割、工学部ではそれ以下であった。医学部が最も割合が高かった。

表12

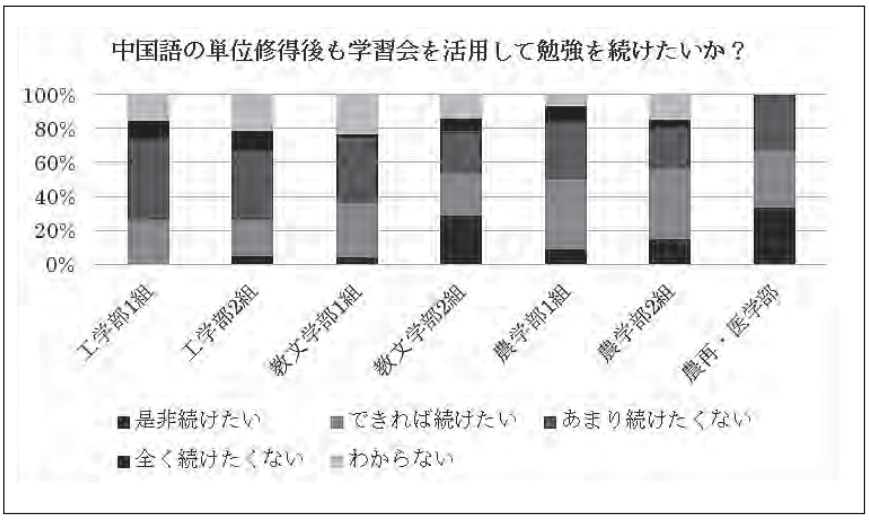
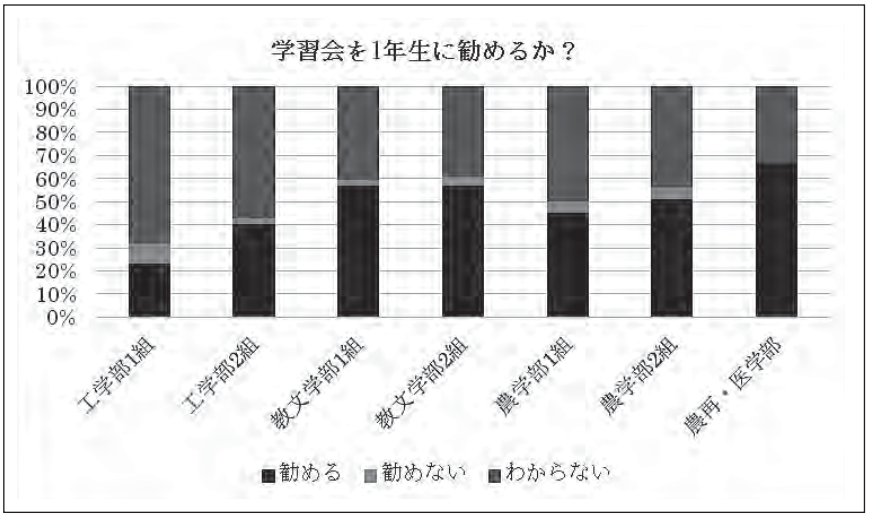


表13



留学生側の反応

会話学習会で講師役をした留学生は４名おり、いずれも南京農業大学の日本語学科の学生であった。日本語のレベルはいずれも上級ですべて女性である。

アンケートを送付しメールで返送してもらったが二人から回答を得られた。

宮崎大学の学生については「まじめ」「何度も参加するうちに上手になっていった」「楽しんでいた」という感想を共通でもっていた。また、中国語を教えたことが「自分自身が中国語を改めて見つめる機会となりよい勉強となった」という感想も共通であった。このような練習会を続けるという点については、学生同士の理解が進むとともに、中国語について留学生自身の理解も進むという理由で賛成の意見が述べられていた。

期待される効果

会話練習会に実際に参加した学生の感想をみてみると、「少人数でよかった」「生の中国語を聞くことができた」「教科書ではわからないことを知ることができた」というもののほかに、「中国語を話せる先輩がいて安心できた」というものがあった。アドバイザー兼管理者として参加してもらった日本人学生（１年間の中国留学から帰国）が毎回参加していたが、留学生が対応しきれない場合、日本語でアドバイスしたり、留学生一人あたりの学生数を調整したりしてくれていた。また、身近でそうした先輩を見ることで、他の学生も具体的な目標設定が可能になるという効果があるようだ。数年にわたる実施の経験を経て、日本人学生同士のこのような接触も重要であることがはっきりしてきた。今後もこのような形を継続するのが望ましいだろう。

おわりに

平成25年度の試み「授業参加を通した基礎的交流」「授業外の強化発展的交流（会話学習会）」のメリットとしては、相手（言語・文化）への興味・関心の増大、学習意欲の向上（日本人学生・中国人学生双方にとって）、短・長期の研修や留学、インターンシップへの参加希望者の増加が見込まれる点が挙げられるだろう。

今後は、中国語の学習を継続して希望する学生向けにはより高度なコミュニケ―ションの機会を提供できるようにし、中国語での簡単なプレゼンテーションも可能な学生の育成を目指したい。

付記

本稿の作成に当たって、アンケート調査の集計を、宮崎大学教育学研究科日本語支援教育専修２年の工藤浩氏、清水知慧美氏、立石健太氏に依頼した。ここに記して感謝したい。

（2014年５月７日受理）

添付資料①

H25　中国語受講生の皆さんへ　　アンケートのお願い

先日来、皆さんにはアンケートのお願いが続いて申し訳ありませんが、ご協力よろしくお願いします。

１．留学生（前期：台湾、後期：中国）によるパワーポイントを用いた発表内容に興味をもちましたか。あてはまるものを一つ選んで〇で囲んでください。

①とても興味を持った　②興味を持った　③あまり興味を持たなかった　④全く興味を持たなかった

⇒①か②を選んだ人に質問です。特にどんな内容が印象に残っていますか。

【　　】

⇒③か④を選んだ人に質問です。なぜ興味が持てなかったのですか。

【　　】

２．留学生との会話練習がありました。日本人学生との会話練習と違いがありましたか。

①違いがある【どのような違いですか？

→　　】

②違いは無い

３．授業に留学生が参加するならば、どのような活動をして欲しいと思いましたか。もっともあてはまるものを一つ選んで〇で囲んでください。

①文化紹介などの発表　②会話練習の相手　③自由会話

④その他

【　　】

４．中国語を学ぶ学生として中国語圏からの交換留学生とどのような交流がしたいと思いましたか。もっともあてはまるものを一つ選んで〇で囲んでください。

①中国語の授業時間内での活動を通した交流

②中国語の授業時間以外の、中国語学習と関係のある交流

③中国語の授業時間以外の、中国語学習とは関係のない交流

④中国語圏からの交換留学生とは交流したいと思わない

⑤その他

【　　】

５．機会があれば中国語圏に短期の文化体験か語学研修に行ってみたいと思いますか。あてはまるものをいくつ選んでもかまいません。

①一週間程度の短期文化体験（中国）に行ってみたい

②一週間程度の短期文化体験（台湾）に行ってみたい
③２週間から一ヶ月程度の語学研修（中国）に行って語学力をつけてみたい
④２週間から一ヶ月程度の語学研修（台湾）に行って語学力をつけてみたい
⑤中国の日本企業でインターンシップができれば、行ってみたい
⑥台湾の日本企業でインターンシップができれば、行ってみたい
⑦行きたいと思うものは無い（次の中から理由を一つ選んで答えて下さい）
【理由：①興味が無いから　②費用の問題　③時間の問題
④その他

添付資料②

平成 25 年度後期開設　　会話学習会に関するアンケート

このアンケートは、研究のために使用します。それ以外の目的には使いません。
また、出席番号はデータの整理のために書いてもらいます。成績とは全く関係ありません。

クラス	工学部1組・工学部2組・教文学部1組・教文学部2組・農学部1組・農学部2組・医学部・再受講クラス	
出席番号		
1	1　あなたは会話学習会に行きましたか？	1．はい　2．いいえ
	1-1-1　1で「はい」を選んだ人だけ答えてください。 あなたは何回行きましたか（わからなければだいたいの回数で）　　回	
	1-1-2　あなたが会話学習会に行った理由を教えてください。（複数回答可） 1．中国語会話を勉強したかったから 2．留学生と中国語を使って話してみたかったから 3．留学生と友達になりたかったから 4．留学生と話すことで自分の中国語力を向上させたかったから 5．ポイント制度を利用して成績に加点したかったから 6．友達が行くと言ったから 7．友達が参加してよかったと言っていたから 8．その他（具体的に書いてください）	
	1-1-3　会話学習会に参加した感想を教えてください。	
	1-1-4　会話学習会の良かったところ、悪かったところを教えてください。	

	1-2　１で「いいえ」を選んだ人だけ答えてください。 あなたが行かなかった理由を教えてください。 １．会話学習会の時間帯には他の授業があったから ２．会話学習会の時間帯には部活・サークルがあったから ３．会話学習会の時間帯にはアルバイトがあったから ４．行こうと思ったが、夕方で気力・体力がなかったから ５．自分は行ってみたかったが、友達が行かないと言ったから ６．行った友達の評判がよくなかったから ７．参加する必要を感じなかったから ８．興味がなかったから ９．その他（具体的に書いてください）
2	２　全員に質問です。会話学習会は中国語の習得に役に立つと思いますか？ １．思う　２．思わない　３．わからない
	2-1　２で「思う」と答えた人だけ答えてください。なぜそう思いますか？具体的に教えてください。
	2-2　２で「思わない」「わからない」と答えた人だけ答えてください。なぜそう思いますか？具体的に教えてください。
3	３　全員に質問です。会話学習会のような活動に宮大生がもっと参加するためにはどうしたらいいと思いますか？（複数回答可） １．授業中にもっと宣伝する　２．成績にもっと加算する ３．時間帯や曜日を変える　４．場所を変える ５．留学生の数を増やす　６．先生役を留学生ではなくて教員がする ７．学生だけでもっと自由にする（サークル活動のように） ８．その他　（具体的に書いてください）

4	4　全員に質問です。中国語の必修単位が取得できた後も、会話学習会を活用して中国語の勉強を続けたいと思いますか。 １．是非続けたいと思う　２．できれば続けたいと思う ３．あまり続けたいとは思わない　４．全く続けたいと思わない ５．わからない
5	5　全員に質問です。中国語会話学習会を１年生に勧めたいと思いますか？ １．思う　２．思わない　３．わからない
6	6　その他、会話学習会について思うことを自由に書いてください。今後の参考にします。